令和４年度 徳島大学大学院 創成科学研究科修士課程

臨床心理学専攻　Ⅱ期

入学試験問題

受験科目名：臨床心理学

【注意事項】

1　係員の指示があるまで問題冊子を開いてはならない。

2　試験問題は，表紙（この紙）１枚，問題・解答用紙６枚の，合計７枚である。

3　解答開始後，各問題・解答用紙の「受験番号」欄に受験番号をはっきりと記入すること。

4　問題は合計５問である。５問ともすべて解答すること。

5　解答は指定された解答欄に記入すること。

6　配布した用紙はすべて回収する。

受験番号	

徳島大学大学院創成科学研究科修士課程臨床心理学専攻
臨床心理学　その1

第1問　次の英文を読み，下の**問1～4**に答えよ。

The coronavirus disease 2019 (COVID-19) pandemic is having a profound effect on all aspects of society, including mental health and physical health. ①We explore the psychological, social, and neuroscientific effects of COVID-19 and set out the immediate priorities and longer-term strategies for mental health science research. These priorities were informed by surveys of the public and an expert panel convened by the UK Academy of Medical Sciences and the mental health research charity, MQ: Transforming Mental Health, in the first weeks of the pandemic in the UK in March, 2020. We urge UK research funding agencies to work with researchers, people with lived experience, and others to establish a high level coordination group to ensure that these research priorities are addressed, and to allow new ones to be identified over time. The need to maintain high-quality research standards is imperative. International collaboration and a global perspective will be beneficial. An immediate priority is collecting high-quality data on the mental health effects of the COVID-19 pandemic across the whole population and ②vulnerable groups, and on brain function, cognition, and mental health of patients with COVID-19. There is an urgent need for ③research to address how mental health consequences for vulnerable groups can be mitigated under pandemic conditions, and on the impact of repeated media consumption and health messaging around COVID-19. Discovery, evaluation, and refinement of mechanistically driven interventions to address the psychological, social, and neuroscientific aspects of the pandemic are required. Rising to this challenge will require ④integration across disciplines and sectors, and should be done together with people with lived experience. New funding will be required to meet these priorities, and it can be efficiently leveraged by the UK's world-leading infrastructure. This Position Paper provides a strategy that may be both adapted for, and integrated with, research efforts in other countries.

出典：Holmes, E.A. et al. (2020). Multidisciplinary research priorities for the COVID-19 pandemic: a call for action for mental health science. *Lancet Psychiatry*, 7, 547–560. より一部抜粋

受験番号	

徳島大学大学院創成科学研究科修士課程臨床心理学専攻

臨床心理学　その２

問１　下線部①を和訳せよ。

問２　下線部②の「vulnerable groups」が指す対象について，考えられうるものを述べよ。

問３　下線部③について，考えられうるものを具体的に述べよ。

問４　下線部④はどのようなものを指しているか，考えられうるものを具体的に述べよ。

小　計	

受験番号	

徳島大学大学院創成科学研究科修士課程臨床心理学専攻

臨床心理学　その３

第２問　心理学に関連する次の文章を読み，それぞれの下線部の内容と関連が最も深い語を，下の語群 a～w のうちから一つずつ選び，該当する記号を解答欄に記入せよ。

1. 感覚によって得られた情報は，環境を適切に認識するために（1）まとまりのある意味のあるものへと感覚情報を再構成する。（2）そのプロセスの中では，さまざまな図を個別に見るのではなく，互いに関連づけて，ひとつのまとまりを見ようとする傾向がある。
2. 記憶の種類の１つとして長期記憶がある。（3）長期記憶には３種類あり，その１つとして身体で覚えている記憶がある。この記憶は他の長期記憶とは異なる脳の部位に貯蔵される。
3. ある刺激に対する生理的反応と生じる感情との関係について，（4）「悲しいから泣く」というように刺激情報が大脳皮質に伝わり，感情が生じるとする理論，（5）ある刺激に対する生理的反応と状況に対する認知的評価によって感情が生じるとする理論などがある。
4. 動機づけについて，（6）内発的動機づけに基づいた行動に対して報酬が与えられると内発的動機づけが低下し，（7）外発的に動機づけられている行動であっても内在化の過程を通して自律的な内発的動機づけに変化し得る。
5. Ainsworth, M. D. S. は，（8）新規な場面および新規な他者と対面する状況下で，養育者との分離・再会に子ども達がどのような行動を示すかに着目して評価する方法を考案した。（9）その評価法から，養育者に接近しながらも途中で動きや表情が硬直し，接近したいのか回避したいのかといった判断が難しい子ども達のタイプを見出した。
6. Fonagy, P. は，（10）自身や他者の心の状態を想像して想定する能力は，人が円滑な社会的生活を営む上で重要な能力であるとし，混乱した愛着スタイルを持つ個人は，この能力を育むのが困難となると述べている。

語群

a. 錯視　b. 自己決定理論　c. ジェームス＝ランゲ説　d. 認知的均衡理論　e. 知覚　f. TEACH
g. 恒常性　h. キャノン＝バード説　i. 無秩序型　j. 手続き記憶　k. 愛着理論　l. 認知
m. 新近効果　n. 群化　o. ストレンジ・シチュエーション法　p. 意味記憶　q. アンビバレント型
r. シャクター＝シンガー説　s. CARS　t. アンダーマイニング効果　u. メンタライジング
v. エピソード記憶　w. 遅発性 PTSD

解答欄

	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)
記号										

小　計	

受験番号	

徳島大学大学院創成科学研究科修士課程臨床心理学専攻

臨床心理学　その４

第３問　次の治療実験に関する文章を読み，下の**問１～３**に答えよ。

薬事犯罪者に対する治療効果を検証するために，矯正施設に入所中の薬事犯罪者 96 名をランダムに 2 群に分け，一つの群（48 名）は 6 週間の介入を受け，もう一つの群（48 名）は介入を全く受けなかった。介入の効果を検証するため，彼・彼女らが出所後に薬事再犯を行うかどうかを 6 年間追跡した。コックス比例ハザードモデルを用いて，彼・彼女らの群の違い，年齢，性別，刑務所への入所回数，及び懲役期間を独立変数に投入して，回帰分析を行ったところ，介入を受けた群の調整前ハザード比は 0.44，調整後ハザード比は 0.27 であった。

問１　イベントが起こるまでの時間とイベントの関係に焦点を当てる分析方法の名称を述べよ。

問２　本実験におけるハザードを述べよ。

問３　本実験における「介入を受けた群の調整前ハザード比は 0.44，調整後ハザード比は 0.27 であった。」の意味を具体的に述べよ。

小　計	

受験番号	

徳島大学大学院創成科学研究科修士課程臨床心理学専攻

臨床心理学　その５

第４問　心理学に関連する，次の 1～20 とそれぞれ関連が最も深い語を，下の語群 a～z のうちから一つずつ選び，該当する記号を解答欄に記入せよ。

1. 第３勢力の心理学と呼ばれ，人間を自由意志を持つ主体的な存在として捉える立場。
2. Berne, E. によって開発された，人間行動に関する理論体系とそれに基づく治療法。
3. 身体がリラックスした時の四肢の重さや温かさを積極的に作り出すことによって，心身の状態を自分でコントロールできるようにする心理・生理学的訓練。
4. Freud, S. によって提唱された，幼少期の両親からのしつけが内在化され，道徳や規範として働く心の構造部分。
5. 神経質症はヒポコンドリー性基調(神経質性格)を基盤とする精神交互作用が発展した結果であるとし，日本独自の精神療法を創案した人物。
6. 主に不安や恐怖の治療法として Wolpe, J. によって開発された行動療法の主な技法のひとつ。
7. 顕在性不安尺度（MAS）の項目の元となった，Hathaway, S. R. と McKinley, J. C. により作成された質問紙法による性格検査。
8. 1896 年 Pennsylvania 大学に世界最初の心理クリニックを創設し，臨床心理学という言葉を初めて使用した人物。
9. Friedman, M. と Rosenman, R. H. によって指摘された行動特徴で，冠状動脈性心臓疾患の発症リスクを高める個人的特徴として知られる。
10. Sifneos, P. E. によって提唱された，自身の感情やそれに伴う身体感覚の同定，自己の感情の表現の困難さなどの特徴を有する心身症。
11. 箱庭療法に影響をうけ，画用紙に枠をつくり川・山・家・人などを描いた後に彩色を求める絵画療法を開発した人物。
12. 1990 年代から重視されるようになった，実証的な証拠に基づく実践の略語。
13. 世界的に使用されている，精神疾患だけでなく身体疾患についても記載された WHO による操作的診断基準。
14. Meichenbaum, D. によって体系化された，心理的ストレスに対する対処法と予防法を学習する訓練。
15. 人間の反応は出来事によってではなく，出来事をどのように受け止めるかという信念によって生じるとする考え方に基づく論理療法を創始した人物。
16. Fredrickson, B. L. によって提唱された，ポジティブ感情を感じると行動が拡張し，その結果資源の獲得などにつながり，さらにポジティブ感情を増進させるという考え方。
17. 集団構成員間の心理的関係や集団の構造を表層的なもの(知人テスト等)から中心的なもの(自発性テスト等)まで５つの次元で捉える，Moreno, J. L. によって創始された理論。
18. 子どもの知的発達を，自力で問題解決できる現在の水準と他者からの援助によって問題解決ができる水準にわけ，この水準のずれの範囲を発達の最近接領域とした人物。
19. トラウマによる広範囲な影響やその対応を理解したうえで，サバイバーおよび支援者が安全であることを重視しつつ，当事者がエンパワーされる機会を提供する支援の略語。
20. 大規模災害や事故などの直後に提供できる心理的支援のマニュアルの略語。

語 群

a. 拡張–形成モデル	b. Ellis, A.	c. 中井久夫	d. TIC
e. 交流分析	f. タイプ A	g. Vygotsky, L. S.	h. 森田正馬
i. PFA	j. 人間性心理学	k. dry-pants training	l. ソシオメトリー
m. 精神分析	n. タイプ C	o. 超自我	p. ICD
q. autogenic training	r. Witmer, L.	s. ストレス免疫訓練	t. シェイピング法
u. EBP	v. 系統的脱感作法	w. Schultz, J. H.	x. MMPI
y. イド(エス)	z. アレキシサイミア		

解 答 欄

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
記号																				

小　計	

受験番号	

徳島大学大学院創成科学研究科修士課程臨床心理学専攻

臨床心理学　その６

第５問　次の文章を読み，下の**問１～２**に答えよ。

臨床心理士養成指定大学院１年生のＡさん（23歳）は，欧米において，うつ病に対して効果があると報告されている，認知行動療法のある介入技法を専門的に学びたいと思い，その治療マニュアルを読んで，介入の実際を学んでいる。学内実習の開始に際して，うつ病患者を担当することになり，その技法の適用を考えた。また，その技法のうつ病に対する効果を我が国において検証する修士論文の研究計画を立てることを考えた。

問１　Ａさんは，上記のうつ病患者に対して，その技法を適用しようと考えた。その際，臨床実践の観点から検討すべき事項を説明せよ。

問２　Ａさんは，その技法のうつ病に対する効果を，自らの修士論文のなかで，我が国において検証しようと考えた。研究計画を立てる際，検討すべき事項を説明せよ。

小　計	

合　計	